

えんせん

日本基督教団瀬戸永泉教会 会報No.244 2018年4月1日発行

巻頭説教 「主の復活をまとう」—「朽ちるものが朽ちないものへ」—

牧師 高岡 清

わたしはあなたがたに神秘を告げます。わたしたちは皆、眠りにつくわけではありません。わたしたちは皆、今とは異なる状態に変えられます。最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは変えられます。この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを必ず着ることになります。この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、次のように書かれている言葉が実現するのです。「死は勝利のみ込まれた。死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげはどこにあるのか。」

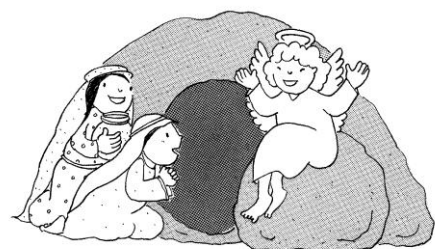
(コリントの信徒への手紙— 15章 51-55)

次々と死んだ兄弟に次々に妻になった(レビラト婚)女性も復活したらどの兄弟の配偶者になるのかと問われた時、イエス・キリストは、「復活の時には、めとることも嫁ぐこともなく、天使のようになるのだ」(マタイ 22.30)と言われた。「復活したら天使のようになる」と聞いて、「そんなの嫌だあ」と言った人がいた。「だって天使みたいになっちゃったら生きてた時の家族や友だちと楽しかったことみんな無くなっちゃうんじゃない。だったら復活しないほうがいい」と。なるほどもし敬虔なキリスト者がみな天国で復活して再会した時、「やあ、これはお久しぶり、私の妻だったA子さん、おうおう、私たちの子どもだったタロウくん、ハナコさん」などと話す想像したら、天使になるのはいいとしてもひどく「よそよそしい」感じがする。復活した人は人柄や性格が全部抜けたそれこそハンコで押した画一的な天使なのだろうか。しかし他方でこんなことを言う人もいた、「よそよそしいからいいんじゃない。復活してまで生きてた時の自分や苦しいことや悩んだことを抱えていたら、その復活なんなの」と。天使のような人格変貌。そこに復活の意味を見出す人もいる。

「復活」は「死を越えて再び生きる」ことである。「再び」ということは日常によくある。パソコン作業してたのに突然動かなくなり、どうしようもなくなる。切り抜けるには「リセット」という手段がある。それをすればパソコンは復活する。ところがパソコンは再生しても、折角入力してきた大事なデータは失われてしまう。これが復活とリセットが違うところである。リセットは「死んで生き返る」というところは似ているがもう「例のあの仕事をしていた

パソコン」ではない。「復活」は「別人になる」ことではない。天国で復活し、古い自分が過ぎてきた人生の幸福も不幸も全部消去されたとして、そこにこれまでと全く違う人間が自分に与えられたというなら、復活前の人間は「死んだだけ」である。新しい人は自分なんだろうか。わたしたちは復活に「自分が消えてなくなること」を求めているのだろうか。

聖書は「わたしたちは変えられます。この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを必ず着ることになります」と言っている。これこそが「復活」である。「朽ちるべきもの」とは今生きている私たち、罪深きそして死すべき人間である。「わたしはあなたがたに神秘を告げます」とまで言って知らせようとするのは「罪深きそして死すべき私」が消え去ってしまうのでなく、そのままその上から「死なないものを着る」ことがゆるされる。様々な過ちを犯し罪にまみれた人間というしかないこの私たちが、神の恵み、キリストの十字架の贖いによって、滅ぶべきでありながら上から着せられる永遠の命によって、永遠の神のもとで生きる。そこでわたしたちは「天使のように」永遠にキリストを喜ぶのである。



イースターの思い出

イースターに関して

C・S姉

中国は仏教、道教文化が深く根ざしている国である。美しい山々や川の風景のどこかに必ずお寺や道観が建てられている。観光客たちは中へ入ってお金を使って焼香したり、願いを託したり、人の手によって作られた偶像を崇拜したりする。私の幼い頃も家族と共に観光のついでに世の中の人々にとって人気な”観光地”に入りしたことがある。道観の中で平安符を買ったこともある。信者ではないものの不安や恐怖感は特に感じなかった。これらの行為は明らかにいわゆる賄賂に近いのだが、誰にも叱責されることなく、周りのみんなが行っているからだ。大衆を順応することはイコール”安全”だった。

現在、洗礼を受けた私はクリスチャンであり、洗礼を受けた日から主から新しい命を頂いた。主から頂いた本当の平安を感謝と賛美するとともに、主に向かって以前の無知と愚挙に対し深く後悔せずにはいられない。以前の無知なる行為は聖書の中に記している金の牛や愚像崇拜する諸国の民と同質であり、神の目の中に罪深い悪事である。人々はお寺や道観での願い事のほとんどは善良な願いであるが、礼拝する対象と足元の祭壇を間違っている。そうすると、真の唯一の万物創造の神様から祝福を受けられるのでしょうか？

今年のイースターをいよいよ迎えようとしている。主イエス・キリストが復活された日を喜び祝う私たちは、真の復活の意味を考え、日々の願い事や世間順応のお祈りを捧げるだけでなく、主イエス・キリストが私たちに求めているものは何かをもう一度よく考え、単なる世間のように商業雰囲気を満たした行事にならないように願うところです。サタンは人々の善良な心と世間の世論に対する危惧する心を利用し、三位一体の神を礼拝する私たちを誘惑し、私たちの信仰を常に汚れさせようとしている。主イエス・キリストが再び降臨する際に私たちは何を持って備えるのでしょうか？単なる日曜日のクリスチャンにならないように日々の生活を見直したい。



追悼

『故O・C姉を偲んで』

M・H長老

C姉が春日井教会から転会されてから、疑問を感じていた事がありました。今回、思い切って長女のHさんに尋ねてみました。それは、群馬県のI教会で洗礼を受け、一年でK教会へ転会された理由でした。

1992年クリスマスにI教会で洗礼を受けた後、間もなくして糖尿病の治療が必要となり、瀬戸市在住で看護師のHさんのもとに転居されたそうです。親しい知り合いも無く、病を抱えての転居は、心細く不安だったと思います。洗礼直後でもあり『教会へ行きたい、礼拝したい』との希望が強かったと聞きました。転居してすぐ、瀬戸永泉教会を訪ねられたそうです。しかし、その頃、瀬戸永泉教会は、無牧でC姉のお心を受け止めることができませんでした。そこで、I教会の牧師に相談し、O牧師（群馬県出身）が牧されていた隣のK教会を紹介されたそうです。神様は同郷のO牧師を近くに備えて下さいました。K教会ではO牧師が転任されるまでご一家でC姉を支え、信仰を導かれたそうです。O牧師の転任に際し、自宅に近い瀬戸永泉教会での信仰生活を勧められ転会されました。

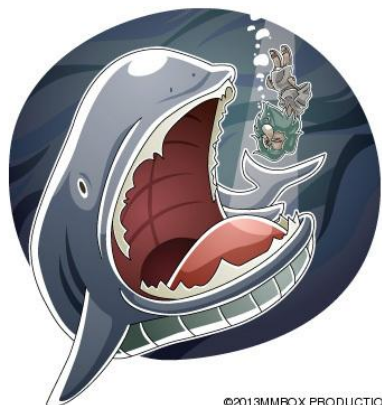
瀬戸永泉教会に来られた当初は、毎週礼拝、祈禱会に出席されました。祈禱会でのお祈りは、純粹で心打たれました。雑談の中では、製材業を営んでいた嫁ぎ先の群馬県新里村での話をよくされました。林業を知らない私には新鮮な話でした。小さな体で製材機器を扱い、大勢の職人さんの食事作りにと頑張られたそうです。祈禱会や礼拝後には、花好きのC姉は、故H姉・故O姉やY姉等と共に教会の花壇の手入れを楽しそうにしておられました。H姉とY姉は、教会を離れた日常生活の中でもC姉を支えておられました。そして、最後までC姉のお世話をし続けられたH姉は、一足先に天に召されましたが、今は一緒に神様の下で眠っておられることでしょう。



長老の証

「聖書の中の自分 ヨナの気持ち」K・Y長老

聖書の中でよく自分自身と良く出会うことがある。わかりやすく言うと登場する人物の考え方、気持ちや行動が自分と同じだと思ってしまう事。CSの分級や夏の集いとかに昔、取り上げられていた魚に飲み込まれたあのヨナと自分自身の思いと重なるところがある気がする。神からの指示でニネベの民に主が怒り、町を滅ぼすことを告げることを仰せつけられたヨナは、神の命令に従わず、逃げ出してしまった。ここの箇所もまた、自分も共感出来てしまうところ。交流のない民、そして神のみ心から離れている人々になぜ、自分が……。親しく付き合いのある、あるいは愛する人々の為なら、喜んでとまではいかななくても、強く拒む事は無かったかもしれません。神の命令から逃れるために乗った船、嵐にあって船員から海へ放り出され、大きな魚に飲まれ、そのおなかの中で、悔い改めるヨナ。神の許しを得て、再び地上に戻ることができ、神の命令に従ってニネベの民に神の怒りを告げ広めました。しかし、ニネベの民はヨナの予想に反して反省し、悔い改め、灰をかぶって神に許しを請う者になりました。神は悔い改めるものを許さずにはられない方です。そのこともヨナには面白くありませんでした。”悪は滅ぶべき”僕らの心の奥底にその思いは有るのだと思います。僕もまたヨナとかぶっている。ヨナは神がニネベをどうなさるのが気になり、町をでて離れたところで様子をうかがっていました。強い日差しから苦しむヨナを救うために神はトウゴマで日陰を作ってくださいました。しかし、ヨナに教えるために神はトウゴマの木を枯らしてしまいました。ヨナは苦しみ、神に訴えました。死んだ方がましだと。神は言われます。”お前は労することもなく与えられたトウゴマを惜しんでいる。それならば、どうして、私がニネベを惜しまずにいられるだろうか”と。”義人はいない。”パウロは言います。そして主イエスは言われます。”罪人を招くために来た。”とクリスチャンが陥る穴よく足元を見て歩きたいものです。僕も罪を犯している。これ



©2013MMBOX PRODUCTION

からもきっと犯してしまうでしょう。それでも許されることへの感謝と隣人を許し気持ちを持つこと、それが主の御心である事を忘れてはいけない。僕はニネベの民であり、またヨナである事、主はきっとご存じで在りながら……。

建築準備委員会からの報告

建築準備委員会アンケートを受けて

—ワークショップから— O・N長老

2月11日拡大建築準備委員会は20名の教会員とY・T建築士M建築士の参加で行われました。

現礼拝堂を残す形で改築するとした時に変更できる点についてのアンケート調査をもとに話し合いました。アンケート結果では比較的多数の意見が多く変更しやすいものと、半分ずつに意見が分かれてどちらが良いかを煮詰めていけないといけないものに分かれました。スロープで入れる礼拝堂、広い受付、中から行ける広いトイレ、母子室の流しはあったほうが良いなどは多くの賛成をいただきました。しかし簡単ではないと思われたのは、中にトイレが二つあれば外から行けるトイレは要らないだろうと多くの方が思っていたら、中に入らなくて外から行けるトイレは教会の外周りの作業時に必要との意見もあり配慮が必要となりました。また靴でそのまま入れる礼拝堂にするかどうかについては、教会に入りやすく高齢者にも安全で、さらに受付をしやすくし受付を広くすることなどから靴で入れた方が良いのではないかと言う意見と汚れやすく掃除が大変になることやブーツのまま礼拝と言うのは床を痛めそうで心配、また他の施設との連絡をどうするか難しいので反対との意見もあり、それぞれの思いを1つにすることが難しいことがわかり、この様な事を具体的に検討していく必要性を再認識しました。

この結果と今までの建築準備委員会での流れを受けて、来年度には①現礼拝堂を耐震(免震)にする、②現在の外トイレと事務室を含めて整備し機能的な礼拝堂周りを造る建築計画を具体的に練っていくこと、そのために準備段階から一歩進んで建築委員会になることを提案しました。Y建築士からは、この外周りの整備計画は短期的で、そこから中長期の将来像に向かって現礼拝堂中心に教会作りを形成していくことを教会員が話し合いながら一つとなる様に作っていくのが良いとのご意見も頂きました。感謝

讃美歌あれこれ

山路ゆく歌声

O・H姉

山路やまじこえて ひとりゆけど
 主の手にすがれる 身は安けし 4 6 6 番
 この讃美歌を歌うと、義母である I・C の遠い日の 倂おもかげが浮かんでくる。

Cの夫は I・R、長子は永年、教会の奉仕者であったK兄である。

若い頃、Cは単身上京して助産婦じょさんぶの業わざを修め、大きな病院の婦長も務めたと聞いた。賀陽宮妃かようの診察も担当し、その時の正装せいそうの写真を見たこともある。

瀬戸へ帰ってからも、信頼される評判の良い助産婦として、その働きは多忙たぼうを極めた。

当時のお産は、自宅で済みますのが殆どであったから、電話 3 1 4 (産医師) 番のベルは、昼夜を分かつ鳴ったことであろう。

瀬戸で自転車に乗った女性の第一号とも言われ、黒のスーツで自転車を走らせていた姿が、今でもなつかしく思い出される。

仕事は近隣きんりんだけでなく、品野の奥まで行くことが多かったという。

夜の電話で呼ばれたことも幾たびか。

暗い夜道を自転車をひき、紺屋田の坂を登りながら、乏しいライトを先立てて、歌って行ったというのが 讃美歌 4 6 6 番 (旧 4 4 4)

みちけわしく ゆくて遠し

ころろすかたに いつかつくらん

歌声やみは闇やみに勝ち、導みちびきの力ちからになった。

穏やかな声で、遠い日の働きを語った義母の優しい面差しおもぎが無性むしようになつかしい。

仕事を辞めた晩年、臥せている身で私に腹帯はらおびを巻いたのが、助産婦としての最後の仕事であった。

3 1 4 の電話は、後に 2 3 1 4 (踏み石ふみいし) となり、教会に献けんぜられた。これもまた、主の許へと歩む一歩一歩を思かんがいわせて感慨深い。

また、夫の葬儀の日、教会員の皆様が、この讃美歌ひつぎで 柩ひつぎを見送って下さったことは、大きな慰めと感謝であった。



2018 年イベントのご案内

- 5 月 20 日 (日) ペンテコステ礼拝
- 7 月 16 日 (月祝) 映画会
- 9 月 22 日 (土) オープンチャーチ
- 10 月 14 日 (日) 柏木哲夫氏講演会
- 10 月 21 日 (日) 創立 130 周年記念礼拝
- 11 月 4 日 (日) 永眠者記念礼拝・墓前礼拝
- 11 月 18 日 (日) 子ども祝福式
- 12 月 23 日 (日) クリスマス礼拝
- 12 月 24 日 (月祝) 聖夜礼拝



= 編集後記 =

K・Y 長老

イースター、おめでとうございます。なぜ、キリストなのか、なぜ主イエスなのか、神を信じるのに……。主イエス・キリストの御名によって……。受難節を終え、イースターを迎えるたびに深く心にかみしめたいものです。主イエスの犠牲があつての私たちなのですから……。今回も原稿お願いしました方々、ありがとうございます。主の御心を思い、新しい春を希望を抱いて歩いていきましょう。

アーメン

日本キリスト教団 瀬戸永泉教会

牧師 高岡 清

〒489-0822 瀬戸市杉塚町 5 電話、FAX : 0561-82-2314

ホームページ : 瀬戸永泉教会で検索

www11.plala.or.jp/eisen/